

ハラールに関する当協会の取り組み

1. ハラールについて知ってほしいこと

私達ムスリム（イスラーム教徒）は、日常生活であらゆる行為が創造主アッラーの望まれる行いかどうかを意識しながら生活しています。もちろんアッラーの禁じられることは僅かで、ほとんどの行為は許されていると言っても過言ではありません。禁じたものはハラームと呼ばれ、許されたものをハラールと呼びます。アッラーは、決してムスリムを困らせるためにハラームを定められたわけではありません。それは、アッラーに対する信仰の証しを行為で示すことを意味し、行うべきことはワジブ(義務)と呼ばれ、行わないことによって信仰の表明をすることがハラーム（禁止）となるわけです。

2. イスラーム世界と非イスラーム世界の違い

ほとんどのムスリムは、イスラーム社会の中で暮らしており、そこでは何をすべきか何をしてはいけないのかが明確に区別されていて特別苦勞することなく日常生活を送ることができます。しかしムスリムが、旅行などで非イスラーム社会の中で暮らさざるをえなくなった時にイスラームで禁じられているものかどうかの判断が言葉の問題や文化の違いからとても判断しづらいケースが出てきます。そこでとても重要になるのは、同じムスリムとして現地で暮らす人のアドバイスになります。現地の言語や文化を理解し、なおかつイスラームのハラームとハラールの区別もできる人の助言なしには心から安心して暮らすことは出来ません。

3. 日本人の美徳「おもてなし」の心とイスラーム

近年、外国から特にイスラーム圏から観光客の増加に対しムスリムの方にも安心して日本での滞在を気持ち良く楽しんでもらうために、外国にはない日本人の「おもてなし」の精神による接待を勧めるムードが盛り上がり、その一環にハラールマーク（ハラール証明書）をお店に張り出すことがもてはやされるような空気が強く感じられます。しかし、そこには大きな落とし穴があることも知っておかなければなりません。確かに、イスラーム社会にあっても最近では、ハラールマークの商品やレストランなどが多くなってきて、ムスリムたちも安心を求めてそれを基準に買い物や食事をするケースも増えてきました。

しかし問題は、イスラーム社会の中で出されているハラールマークと日本のような非イスラーム社会の中で出されているハラールマークが同じ基準で出されているかどうかということです。イスラーム社会でのハラール基準は、商品なりレストランなりで、仕入れから製品として提供されるまでの全ての段階でハラール性が担保されていることを証明するものであり、それはイスラーム社会であれば完全にそれが保障されていることを疑うことはありえないでしょう。しかし、もし日本のような非イスラーム社会でハラール

ルマークを同じ基準で出すことは極めて困難であると言わざるを得ません。日本に住む私達ムスリムにもそれは不可能とは言わないまでも、残念ながら責任をもってそれを証明できる段階にないのが現状です。

「おもてなし」とは、相手の気持ちに立って考えて協力してあげる精神だとすれば、ムスリムの安心を保証してあげてこそ、本当の「おもてなし」になると思います。

4. 当協会のできること

当協会としてハラール証明書がほしいという要請には、私達ムスリムが本当に安心できることが証明できれば、その証明書を出すことに問題はありません。しかし、その基準が日本独特のもので他のイスラーム社会の基準と異なるものについては、残念ながら責任が持てない以上出すことは出来ません。当協会では、それらの要請には契約を結ぶことで個々の事案に対するアドバイスを行い、出来る限り外国からのムスリムにも安心を提供できる方法を整える意味で、ハラール国内委員会を立ち上げて対応することになりました。